

令和4年度 栃木支部冬山報告

- 1 期日：令和4年1月28日～29日
- 2 場所：安戸山（やすとやま）及び御亭山（こてやさん）
- 3 参加者：石澤 好文・渡邊 雄二・増渕 仁一・仙石 富英・神島 仁誓・後藤 尚
菱田 克彦・大島 健一・林 祐寿・前田 洋子・仲島 正子・荒井 理
以下ゲスト 鈴木 清一・上田 景子・藤田 礼子 計15名
- 4 行動概要

一日目 道の駅「湯の香しおばら」集合—安戸山—藁沼集落下山—道の駅「湯の香しおばら」
(8:30) (12:20～12:40) (15:00)
=宿「きみのゆ」大田原市佐久山 2508

二日目 きみのゆ—頂上緑地公園—登山口—御亭山頂上—解散
(8:20) (9:30) (11:30) (11:40)

令和5年となり最初の支部行事は多くの参加者を迎えての山行となった。前夜降った雪で集合場所である塩原の道の駅までの道路状況が心配だったが、ほぼ影響もなく皆さん無事集合することができた。

本日登るのは安戸山で標高1151m程ではあるが、前日の雪ですっかり白くなっている。天候は雲が多いものの晴れ間もありこの時期らしい寒さである。道の駅を出発して一面の雪景色を眺めながら登山口へと歩き始める。間もなくして林道に入り、しばらく植林された針葉樹林の中を進むと標高650m付近の鉄塔下が開け、眼下には那須野が原、遠くには雨巻山などの芳賀の山々も見えた。さらに傾斜のゆるい登山道・林道を歩き標高920m付近から山頂へと続く尾根に取り



【安戸山へ出発】

つく。ここから傾斜がきつくなる上に5センチほど積もった雪の下は落ち葉でさらにスリップしやすく非常に歩きにくい。そんな道と格闘すること約一時間、安戸山山頂に到着。山頂も樹林帯の中ではあるが落葉した広葉樹のため木々の間から景色を望むことができた。少し風もあったせいか結構寒く、ウールの手袋一枚で来たことに後悔した。下山は藁沼集落、そこから道の駅まで3キロ以上の舗装路を歩くことになるため林・荒井の二人は先行して下山、車両を下山口に廻すことにした。二人で歩いた（走った？）舗装路は結構長くて、結果これが正解だった。道の駅に戻り、各々今夜の宿泊場所へ移動、予定していた役員会を済ませ温泉に浸かった。低山とはいえ寒い一日だったので冷えた体が温まる。入浴後に懇親会が行われたがここで帰らなければならぬ私を含めた数名は後ろ髪を引かれる思いで宿をあとにした。



【安戸山山頂】



【宿での懇親会】

(文責 荒井理)

今回宿泊には佐久山温泉きみのゆコテージを利用いただきました。後藤会員の義弟が経営する温泉ですので、宿泊関係は後藤会員が担当させていただきました。食堂での夕食が混雑してご迷惑をお掛けしました。懇親会はコテージで薪ストーブを眺めながら、皆様の差し入れの美味しいお酒を堪能しながら楽しいひとときを過ごすことができました。またのお越しをお待ちしております。

2日目は大田原市の旧黒羽町内にある御亭山（こてやさん標高 512.9m）に登りました。御亭山の名前の由来はよく分かりませんが、御亭とは「1 他人を敬って、その邸宅をいう語。2 御亭主の略。」を表す言葉のようです。この山域は昭和 52（1977）年に当時の黒羽町（現大田原市）・馬頭町（現那珂川町）の森林 1,518ha を消失した大火のあった場所で、そのためか山頂付近は大きな木もなく那須野が原から日光連山、富士山、筑波山などが見渡せる絶好の展望の山となっています。

登山のメンバーは渡辺、石沢、仙石、神島、後藤の5名。車道から頂上に車を上げ、その後黒羽市街まで後藤車で移動し登山開始となります。登山口付近の方に伺って空き地に駐車しました。登山口からは愛宕神社の石段が300段以上続き宴会明けの体には応えます。その先は愛宕山、飯縄山、岡沢ボッチ、岡沢の頭、八塩ノ頭を經由して山頂へと植林された平坦な樹林の尾根道を登って行きます。途中トレランらしき方を含め2、3人とすれ違いましたが、静かな山歩きができました。頂上に着いたところ、前田、上田、藤田のお三方が車で登って来られており一緒に記念写真。関東平野の絶景を眺め解散となりました。（文責 後藤尚）



【御亭山山頂】



【宇都宮のビル群と富士山】